

発電機2基、総事業費9.7億円



工事の安全を願いくわ入れ
する三部社長

【新得】家畜ふん尿を利用したバイオガス発電事業に取り組む「十勝新得バイオガス」（三部政幸社長）の集約型バイオガスプラント施設の建設工事起工式が5日、町屈足東1線84の建設予定地で行われた。2016年11月の稼働を予定している。

同社は、町内の酪農家やJ A新得町などが出資し設立。対象は酪農家5戸1504頭分。農事組合法

人三友農場（三部政幸理事長）の敷地内に原料、発酵、貯留の各槽などを建設し150キロワットの発電機2基を備える。

ふん尿処理量は最大で一日105トン、発電量は6840キロワットで、年間235万キロワットとなり、一般家庭約500世帯分に相当する。余剰熱による温水は隣接する湯宿くったり温泉レイク・インに供給する。

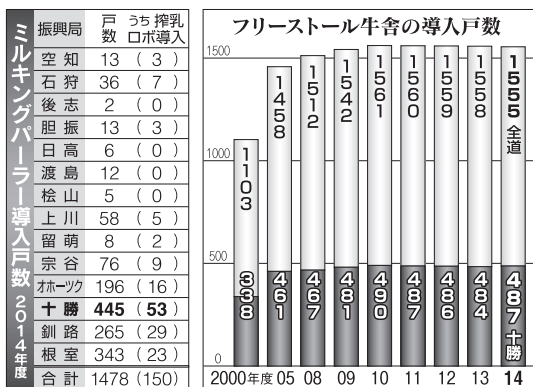
メタン発酵後の消化液は牧草地などに活用し、地域の畑作生産者にも供給。レイク・インではボイラーの代替えとして温水を利用し、燃料代年約200万円の節約を見込む。総事業費は約9億7740万円。国のバイオマス産業化推進事業(今年度分1億8000万円)の採択を受けている。

農業ガイド1024号

2015年9月5日

搾乳ロボの導入進む 十勝は伸び率、導入戸数とも全道最多

道農政部は道内の新搾乳システムの普及状況（2015年2月1日現在）をまとめた。搾乳専用施設ミルクングパーラーとつなぎ型のフリーストール(F S)牛舎を両方導入している十勝の農家は、全体の34.3%に当たる443戸だった。特にこの1年で搾乳ロボットを導入する酪農家・法人が増え、前年比6戸増の53戸と、伸び率、導入戸数とも全道最多となっている。



十勝、前年比6戸増の53戸

同日現在の十勝の搾乳戸数は前年比46戸減の1292戸、道内は同201戸減の6129戸。うち、ミルクングパーラー、F Sを両方導入しているのは24%に当たる1469戸（前年比10戸増）となっている。

道内のミルクングパーラー導入の推移をみると、1990～2000年代がピークで、毎年新たに50戸前後導入していた。近年は離農や飼料高などによる経営圧迫で年間の新規導入数は4年連続で減少し、前年度は17戸。今年は27戸に増え、うち搾乳ロボット導入は13戸だった。

十勝のミルクングパーラー導入戸数は前年比13戸増の445戸で、普及率は34.4%。うち53戸が搾乳ロボットを導入している。

十勝のミルクングパーラーの形式別では、牛を平行に並べるパラレル型が前年比5戸増の152戸、回転するロータリーパーラーが同3戸増の39戸だった。

十勝のフリーストール牛舎の導入戸数は、3戸増の487戸。新規整備の減少や離農などで近年は微減傾向だったが、4年ぶりに増加に転じた。全道では同3戸減の1555戸と減少傾向が続いている。

十勝の哺育・育成の外部化状況では、実施農家集団が前年比1戸増の18戸、利用農家は9戸増えて118戸（利用率9.1%）。コスト削減などの経営効率化、労働負担の軽減を進めようと外部化が進んでいる。

労働力不足の解消で

道農政部は搾乳ロボット導入増の背景について、「近年顕著になっている労働力不足の解消が目的では。十勝で導入が多いのは経営体力のある農家が多いことも要因とみられる」としている今年度も、国の「畜産クラスター」事業による補助を受けた導入が進んでおり、管内、道内の搾乳ロボットの導入数は増えそうだ。